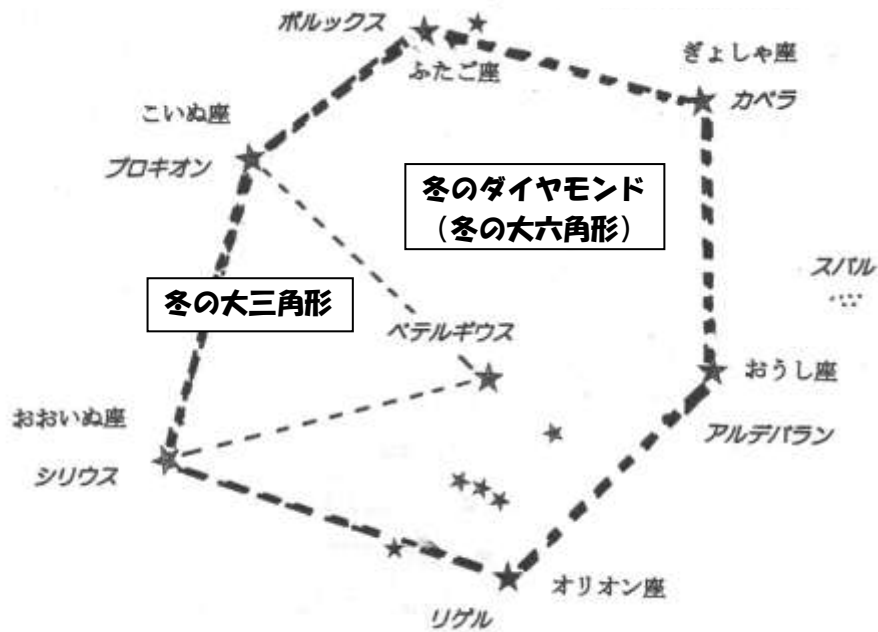


花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくどきどき国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月9日 NO.67



花ちゃん 「オリオン座の左上のベテルギウスと、こいぬ座のプロキオンと、おおいぬ座のシリウスの三角形で冬の大きな三角形というんですね。オー君博士！」

オー君 「そうだよ。それから、まだまだ明るい星がいっぱいあってね、冬の大きな三角形の他に、『冬のダイヤモンド』とか『冬の六角形』とか呼ばれるものもあるだよ。まん中のオリオン座のベテルギウスをとったとして考えてごらん。六角形になっているだろう。」

花ちゃん 「全部（ぜんぶ）おぼえたの。オー君すごい。またまた見なおしちゃったわ。」

オー君 「いや、ほめられてうれしいけど、無理（むり）しておぼえたわけじゃないよ。だって、いつもモンタ博士も言っているだろう。何度（なんど）も見ているうちにおぼえてしまうものだって。植物だって、虫だって、鳥だって、星だって、みんな同じさ。楽しみながら見ていけば、自然にわかるのさ。」

花ちゃん 「なーるほどね。大切なことは、いろいろな事に興味（きょうみ）や関心（かんしん）をもつことですね。私、もっともっと星について勉強するわ。ところで、モンタ博士はどこ？」

オー君 「あれ！あっちから歩（ある）いてくるぞ。」

モンタ博士「♪風の中のスバル♪砂の中の銀河♪ ♪草原のペガサス♪街角のシリウス♪」

オー君 「うわあー、オンチだ！やめてくれ。」

モンタ博士「何々。そんなにうまいか。それじゃ、もっと歌いたくなかったな。えーと。

中島みゆきの『地上の星』の次は、谷村新司の『昴（すばる）』という歌も歌ってやろう。これも名曲だぞ。」

♪嗚呼 さんざめく名も無き星達よ 嗚呼 いつの日かだれかがこの道を
我はゆく 青白き頬のままに 我はゆく さらばスバルよ♪ (モンタ博士自分で拍手)

オー君 「うわー。にげろー。助けてー。やめてくれー。モンタ博士はオンチだよー。」

花ちゃん 「ひどい歌でしたね。ここまで来ればもう大丈夫ですね。ところで、私わからないことがあるんだけど……。この前の夜ね、おうちの人と、星空のながめていたの。そしたらね。」

オー君 「そしたら、どうしたの。」

花ちゃん 「そしたらね、もっと明るくてよく光っている星があったの。私、わかんなくなっちゃった。」

オー君 「あ！そうか。もしかして、あのことが……。モンタ博士もちゃんと言っておけばよかったんだ。つまり、花ちゃんの言いたい事とは、丸い点線（てんせん）のあたりにとてもよく光る星があるということだろう。それはね、『木星』だよ。シリウスよりも今は明るいよ。それと、南の空低く宵（よい）の明星（みょうじょう）と言われる『金星』がめちゃくちゃ光っているということだよ。くわしくはまた今度ね。」

